



Hiroshima City University Language Center

広島市立大学語学センター

Newsletter No.52 (2015.11.11)



新任日本語教員 武藤彩加先生のご紹介

2014年3月に日本語担当の岩田一成先生が退任され、後任として、今年度4月に武藤彩加先生が着任されました。

武藤先生は、早速7月に図書館いちこもで留学生のスピーチ大会を開催され、毎年開講されているHiroshima and Peaceでは外国人受講生を対象とした日本語のクラスをご担当、11月には留学生との宮島遠足も計画されていて、本学の留学生にとってなくてはならない存在です。将来、武藤先生のように日本語教員になって、外国人の学習を支援したり、国際的な現場で活躍したいという学生の皆さんは、ぜひ、先生の研究室を訪ねてみるといういいですね。

目次：

「外国語としての日本語」言葉について考える楽しさ

国際学部 武藤彩加先生・・・・・・・・・・・・・1

ミニコラム：情報科学研究科 高橋賢先生・・・・・・・・・・・・・2

南アフリカ公使、ウガンダ大使語学センター訪問・・・・・・・・・2

発表する楽しさを記録に残して

国際学部 岩井千秋先生・・・・・・・・・・・・・2

プロ・ペータス作フランソワ・スクイテン画『闇の国々』

名誉教授・芸術資料館もと館長 大井健地先生・・・・・・・・・3

知のトライアスロン映画上映会・・・・・・・・・・・・・4

市大英語eラーニング講座・・・・・・・・・・・・・4

「外国語としての日本語」 言葉について考える楽しさ

国際学部准教授 武藤 彩加



皆さん、こんにちは。4月より国際学部に着任した武藤彩加と申します。語学センターでは留学生を対象とした日本語のクラスの担当とコーディネーター業務を行っています。

2000年以来、日本語教師として留学生に日本語を教えてきました。立命館アジア太平洋大学と琉球大学を経て

2015年4月に広島市立大学に着任しました。沖縄には10年近くいたので、親子ともども1日も早く「内地」に適應しようと日々奮闘しているところです。

市立大では、留学生を対象とした日本語の他に「日本語学・日本語教育学」という授業も担当しています。この授業では、皆さんの母語である日本語を外国語としての日本語、つまり世界の諸言語の一つとして客観的に観察できるようになることと、言葉について考える楽しさを知ってもらおうことを目指しています。引き続き、留学生に日本語を教える仕事に加え、日本人学生の皆さんの授業もいろいろ担当できるようになり、うれしく思っています。

日本語教師という仕事はおもしろいですよ、世界に出ていくきっかけにもなりますよと日本人の皆さんにお伝えできればと思っていますが、その私が今も日本語教師を楽しんでやっている、という環境は理想的です。市立大の留学生と日本人学生との交流がより進むよう、少しずつ工夫をしていきたいと思っています。留学生と友達になってみたいと思っている人は気軽に私にも声をかけて下さい。

皆さんには言語を研究する楽しさについてもぜひお伝えしたいです。「身体性に由来する制約と環境からの影響が言葉の意味にどう関わるのか」という課題に興味があり、認知言語学の枠組みで各言語の「共感覚的比喻」や「五感を表す語」の分析等を行っています。

研究のキーワードは、「言語普遍性、生理学的普遍、身体性、生得性、経験的基盤、五感」で、現在取り組んでいる課題は、様々な言語で「おいしさ」をどのように表現するかという研究調査です。大学院の授業（日本語教育論）でも自分の研究について話することがありますが、院生以外の方でももし日本語や日本語教育の研究に興味があったらいつでも研究室に来てください。



今年度 Hiroshima and Peace の集合写真（後ろから2列目、右から2人目）

ミニコラム 外国語に想う【44】

「外国語には感動がある」

情報科学研究科 准教授
高橋 賢

外国ではいつもこんな感じです

「恥ずかしいから絶対にトイレットなんて言うなよ。レストルームって言えば」
「わかってます。そんなこと」飛行機の中で薦められるままに飲んだビールとワインが災いして、空港に到着すると同時にやっぱり便意を催した。先輩から言われたとおりに道行く人にたずねたら、その人、オーケー、オーケー、といいながら私の腕を取りレストランに連れて行ってくれた（親切）。私は、今でも英語が苦手、外国語には向いていないらしい。

はじめて外国一人旅をしたのは、今から約20年前で、行き先は韓国だった。当時の韓国には日本人への嫌悪感にあふれていて不安であった。しかし、アニョハセヨ（こんにちは）とカムサハムニダ（ありがとう）の言葉、そして笑顔で皆に親切にしてもらえ、そのような不安は吹き飛んだ。だんだん楽しくなってきた、ヨルセ・ジュセヨ（鍵ください）や数字などの片言語を、そしてハングル語の読み方を覚え始めた。そう、日本人があまり行かない、北側の見渡せる龍頭山統一展望台に行ってみようと思い、ソウル駅でキムツォン・ハンジャンジュセヨ（金村まで一枚ください）と言ったのに通じなかった。発音が悪かったらしい。やっとの思いでたどり着いた金村からはバスに乗って展望台まで行くつもりだったが、そのようなバス便はなくなっらしい。相手は私に韓国語で、私は相手に日本語で話した。不思議なもので、意思疎通だけはできたようだ。韓国旅行中は旅館に泊まった。ある旅館では、私が日本人とわかるとすぐに奥に引っ込んでしまう主がいた。最後に旅立つとき、その主は片言の韓国語を話す大嫌いなはずの日本人旅行者に「みーず」と言ってペットボトルを手渡してくれた。感動ですね。すっかり同化して再び韓国を訪れたときのこと、私は空港の入国審査場で外国人レーンに並んでいたら、空港係員が何か言いながら韓国人レーンまで私の腕を取り連れて行ってくれた（親切）。

外国語には感動があります。向き不向きよりも前向きですね。若い皆さんもいっぱい感動してください。



南アフリカ公使、ウガンダ大使が語学センターを訪問



8月5日（水）、平和記念式典参列のため広島市を訪問されていた南アフリカ共和国駐日全権公使のドリーン・ノシセロ・ムベレ氏が語学センターを訪問されました。

松本国際交流推進センター長の案内で語学センターを訪れた公使は、ホールやCALL教室・自習室を見学されました。403A教室では、eラーニング英語のプログラムを体験され、自習室では自習をしていた学生と一緒に写真をとられるなど和やかに交流されました。

8月7日（金）には、同じく平和記念式典参列のため広島市を訪問されていたウガンダ共和国特命全権大使のベティ・グレース・アケチーオクロ氏、同三等書記官のムシングジ・ジェシー氏が語学センターを訪問されました。

松本国際交流推進センター長の案内で語学センターを訪れた大使一行は、ホールやCALL教室・自習室を見学されました。403A教室ではCALLの説明を受けられた後、大使と三等書記官はペア機能を使用して会話を体験されました。



南アフリカ共和国の資料を寄贈していただきました



2014年度OPPの発表作品（テーマ“OPP Nobel Peace Prize Award Ceremony”）の収録ビデオ

発表する楽しさを記録に残して

国際学部教授
岩井 千秋

私が最近関心を寄せているのが外国語の協働学習（collaborative learning）です。語学学習には一人であることが好ましい面と複数であることが好ましい面があります。協働学習は言うまでもなく後者です。そのきっかけは、本紙のコラムでも以前ご紹介しましたが、私が代表を務めている Oral Presentation & Performance (OPP) の取り組みです。これは複数の大学（6～8大学）が参加して行う年に一度の英語による発表イベントで、私の担当しているゼミでも過去6年間に亘り作品を創作・発表してきました。

この活動で手元に残った「副産物」が発表の様子を収録したビデオです。「塵も積もれば山」（ゼミ生の作品は塵ではありませんが…）となり、すでに6本のビデオ作品が完成。そうこうしているうちに、ゼミの取り組みもビデオに残すことを思いつき、今年度はゼミ生に、「ことば」をテーマにした聞き込み調査の様子や結果を、英語の字幕を加えるなどして、ビデオ作品にすることを企画しました。

その結果はというと、これがことのほか面白いんですね。ゼミだけの内輪で観るのはもったいないので、語学センター内で公開することを職員さんたちに相談。行く行くは👍（いいね！）のような機能も加え、学内版YouTubeができないかと思案しているところです。この試み、単なる興味本位ではなく、かなり教育効果が期待できるように感じています。ともあれ、乞うご期待！

BD 連帯画文エチュード 2

発想と「世界観の造形」が日本国の人々を照らす

ブノワ・ペータース作

フランソワ・スクイテン画 『闇の国々』

大井健地（名誉教授・芸術資料館もと館長）

『闇の国々』*の実物にはじめて接したとき、ハードカバーの重厚本だったので、いかにもいかにもとうれしかった。噂どおりに、知的高級書籍の印象。想像は裏切られず、むしろ想像以上の厚みと重みと安定感を伴って目の前に現れたのだった。フランス語初出書は見えないが、日本語訳本は日本の“本の芸術”の優秀例を示す出来だろう。

B5判のこの本の第I巻は以下の3作品と年表、作品リスト、作者インタビューを収めて正400頁。

「狂騒のユルピカンド」は、キューブ状の超強固な材質の物体“ロビック網状組織”が増殖する都市の話。主人公は都市計画建築家ユーゲン・ロビック。彼の書斎から網状組織は不可解な増殖を始める。3年後、大震災でユルピカンドの街はほぼ壊滅する。

アールデコ建築やファシストの都市計画、またエティエンヌ・ルイ・ブーレー（1728-1799）やル・ドゥー（1736-1806）の幻想建築になじみがあればより楽しめるはず。

パリ・ルーブル美術館のガラスのピラミッドの稜線もまた“ロビック網状組織”で、やがてこれも世界に拡散するのではないか、というのは、本作によって植えつけられたワタシの妄想。

訪日した若手フランス人漫画家が我が国の海岸に放置された、彼には用途不明の“コンクリート製多面体ブロック”（「テトラポット」のことだろう）の列を見て、「ロビックのキューブの残骸」かといぶかっている**。

「塔」。たった一人で巨大建造物の石の崩れを修復する作業に従事する。そのジョヴァンニが、基部の官吏に陳情に赴く道中話。といっても平坦な道を横に歩むのではなく塔の垂直構造を経て進むのだ。どこからどこまでもミステリアスな、塔にとりつかれた、とりつくしかない人の不条理なありさま。なぜ人は塔をつくるのか。靈感源はブリュゲル（1525頃—1569）の油彩《バベルの塔》（旧約聖書「創世記」に出てくる）、ピラネージ（1720-1778）の版画《幻想の牢獄》、カフカ（1883-1924）の小説《城》など。

主人公の名、ジョバンニ・バッティスタはイタリア人の名だが、これはピラネージのクリスチャン・ネームである。外見はオーソン・ウェルズのイメージで描かれている。衣装、風俗で連想させる時代は中世、ルネサンス、近代へと変わっていく。

ブリュゲルの絵ではパノラミックに、塔の全貌が一望のもとに把握されていたが、「塔」では分割されたコマの連続によって局所的にのみ描写される。どこからでも見え

るランドマーク・タワー、遠くまで見える物見の望楼という器能はこの塔にはない。無用の存在であり、永遠に未完成であるがゆえに、不安定であればあるほど、人はひきつけられてしまうのである（キミもワタシも無用で未完成で不安定だろ）。「贅言不要。あるいは奇妙な終幕」と題された終章で主人公たちはナポレオン戦争の戦場に投げ出される。民兵烏合の野戦場が、塔から解放された場所であった。

「傾いた少女」。地球の引力より地球外の別の天体の引力を異常に強く感知すれば人は傾く——少女メリー・フォン・ラッテンは傾いた。彼女はいじめを受ける寄宿学校から「まっすぐ」の扉を歩いて越えて抜け出す。奇妙な平衡感

覚芸人として驚天動地の芸を見せたサーカスを去る。そして科学者の協力を得て、体が傾かない未知の星へ着地する。

最終章の唐突さはお話のほぼ全てに共通する。メリーはここでは「闇の国々」のある都市の女性首長になっている。

この3話は年代、地域を別々にして、しかも『闇の国々』（原題 Les Cités obscures）を形成する偽りの史伝でもあるのだ。

2013年10月、日本語版『闇の国々』は全IV巻

で完結した。I巻3話のほかの小生のおすすめは、III巻「ある男の影」（自分の影だけがカラーなんだ、どうする？）。同「見えない国境」（女主人公シュコドラーのお尻に地図）。IV巻「砂粒の理論」（宙に浮いた料理人、体重をなくしたのだ）。これらは全て、身体に突如ハンディが現れた人の話だ。原因不明の現象に見舞われて困惑する一個人と周囲。腺病質の少女が蒙った異変であるI巻「傾いた少女」は傑出した名品かもしれない。

『闇の国々』がBD（bande dessinée 仏語圏漫画）の名品であることは一部の人にはすでによく認識され翻訳が待望されていたはず。谷口ジロー（BD界で高評価の漫画家）はスクイテンのすごさを①発想、②テクニック、③構図、そして④「世界観の造形」と分析する。スクイテン自身は全4巻に「ほぼ一生を費すぐらいの時間をかけている」という。ペータースの才覚も大きい。日本国の文化は①や④についてこそ欠けるところはないかと刺激される。現代「海外」文化の日本「輸入」品とも解されてよい。

*『闇の国々』第I巻。古永真一、原正人の訳。小学館集英社プロダクション、2011年12月刊。4000円＋税。

**『JAPON—Japan × France manga collection』飛鳥新社。113頁。



2015年度前期 知のトライアスロン映画上映会開催

テーマ ドイツ映画にみる「他者」の政治：ジェンダー・セクシュアリティ・階級・宗教・民族

6月22日（月）～6月26日（金）に、語学センターにて、いちだい知のトライアスロン映画上映会を開催しました。国際学部ヴェール・ウルリケ先生にご協力頂き、「多文化共生入門」との連携企画で行いました。テーマは「ドイツ映画にみる「他者」の政治：ジェンダー・セクシュアリティ・階級・宗教・民族」で、作品7本を日替わりで上映しました。後期は、「言語・コミュニケーション研究入門」との連携企画での上映会を開催予定です。詳細は未定ですが、決まり次第、掲示やHPでご紹介いたします。ぜひご参加ください。

テーマ：ドイツ映画にみる「他者」の政治：ジェンダー・セクシュアリティ・階級・宗教・民族上映映画

上映映画：「白いリボン」「善き人のためのソナタ」「制服の処女」「東ベルリンから来た女」「ウェイヴ」「そして、私たちは愛に帰る」

*番外編：「ムーラン」（国際学部講義「多文化共生入門」で使用）

◆今回上記の作品を見逃した方は、附属図書館で視聴することが出来ます。



市大英語 e ラーニング講座開催（平成 27 年度第 2 期）

今年度も、市民を対象とした英語の e ラーニング講座が 7 月 26 日（日）～9 月 26 日（土）に語学センターを含む市内 3 か所の施設で開講されました。

現在は、広島市立大学サテライトキャンパス会場を含む市内 2 か所で、第 3 期の講座が開講されています。（11 月末まで）

暑期中、受講者の皆さんは毎日のように熱心にプログラムに取り組んでいらっしゃいました。その中の受講者のお一人である三木薫さん（市大英語 e ラーニング講座、リーディング・リスニング・文法プログラム受講）にプログラムを受講しての感想などをお伺いしました。



語学センター自習室での学習の様子



Q：受講のきっかけについて

A：妻にすすめられたのがきっかけです。定年退職後時間が出来たので、長年取り組みたかった英語の勉強を始めようと思いました。

Q：実際に受講してみてのご感想

A：間違えた問題をくり返し勉強できるのが、魅力的でした。講座前に受けた TOEIC テストのリスニングセクション Part3 と Part4 を解いた時、設問をあらかじめ読んでおく時間が十分に取れなかったため、放送内容が聞き取れなかったことがありました。それでリスニング能力とともに「速読」の能力が必要だと感じました。リスニングの問題を 1,2,3 …6 通りと取り組んでいくうちにはつきり聞き取れるようになったと実感があります。またリーディングと文法の問題では、何度も読むうちに長い文章でも文法や単語もよく分かり、文章全体の内容も十分理解できるようになりました。

Q：これからの語学学習の目標について

A：歴史を専門にする仕事に就いていたので、歴史と文化について英語の資料を読めるようになりたいです。

発行日 2015 年 11 月 11 日
発行 広島市立大学語学センター
〒731-3194 広島市安佐南区大塚東 3-4-1
編集 堀本真由美、加藤美奈 <内線：6410>
取材協力 福島沙奈（市大英語 e ラーニング講座担当）
Phone (082)830-1509 Fax (082)830-1794
E-mail lang@intl.hiroshima-cu.ac.jp
ホームページ
<http://call.lang.hiroshima-cu.ac.jp/lang/index.html>

◆ 視察・オープンキャンパス等報告 ◆

4 月 28 日 広島県立千代田高等学校（16 名）
6 月 4 日 進路指導教員対象大学説明会（7 名）
6 月 14 日 プレオープンキャンパス（58 名）
7 月 1 日 広島県立五日市高等学校 PTA（31 名）
7 月 10 日 広島県立安芸府中高等学校 PTA（30 名）
7 月 22 日 広島県立広島井口高等学校（40 名）
8 月 2 日 オープンキャンパス（192 名）
10 月 12 日 ライブキャンパス（68 名）
10 月 13 日 広島県立大門高等学校 PTA（34 名）
10 月 16 日 広島県立可部高等学校（42 名）